

## 関西国際大学における農業農村分野の取組み *Activities in Agriculture and Rural Areas at Kansai University of International Studies*

北村 浩二\*

KITAMURA Koji

### 1. はじめに

関西国際大学は、メインキャンパスが兵庫県三木市にある、学生数が比較的少ない私学の地方に位置する小規模大学である。三木キャンパスの経営学部では、学生が地域マネジメントを専攻することとなっており、特に三木市や丹波市などの農業農村分野における地域マネジメントについて学んでいる。

地域マネジメント専攻では、特に農業農村地域の課題を発見し、地域資源を活用して解決できる地域活性化に貢献できる人材の育成を目指している。少子高齢化、人口減少、経済停滞、自然災害といった多様な課題を前に、持続可能な地域社会を農業農村において、どのようにして構築しマネジメントするかについて学ぶ。そして農業農村地域の実際の現場に出向き、自らテーマを見つけ、その解決に向けた方策を探る能力を、学生に身につけさせることとしている。

地域マネジメント専攻においては、特に学生が現場で実際に農業農村分野のさまざまな活動を体験する経験学習に力を入れている。そこで、関西国際大学の経営学部で行っている農業農村分野の経験学習の具体的な事例のいくつかについて紹介する。

### 2. 丹波市における農業の6次産業化や地域活性化

関西国際大学は、兵庫県丹波市と地域連携協定を締結している。その中で、丹波市と大学が幅広い分野で結びつきを強め、農業農村地域である丹波市の活力ある地域づくりや産業振興などに大学が貢献することを、その目的の1つとしている。その一環として、学生が実際に丹波市を訪問し、丹波市における農業の6次産業化などを通じた農業農村地域の活性化について学んでいる。

丹波市の農産物としては、丹波栗や丹波の黒枝豆などが有名である。しかし、少子高齢化や過疎化が進行する丹波市の地域活性化のための活動について学生が学ぶため、農業の6次産業化などに取り組む企業などを定期的に訪問している。

具体的には、「強い農林水産業」や「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の地域資源を引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良な事例として、近畿農政局から近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定された、株式会社ゆめの樹野上野を訪問している。同社は、地元の丹波市野上野地区が抱える少子高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加などの深刻な問題に対応するため、地区の自治会が100%出資して設立された全国的にも珍しい自治会法人である。同社では、丹波市の特産品である丹波栗、黒豆、大納言小豆などの農産物の栽培管理である1次産業だけでなく、2次産業としての特産の農産物を使用した和洋菓子の商品開発や製造、3次産業としての卸および販売を総合的に行っている。

---

\*関西国際大学 Kansai University of International Studies

キーワード：関西国際大学，農業農村分野，地域マネジメント

また学生は、丹波市春日町にある道の駅の成功事例である「おばあちゃんの里」を訪問し、道の駅による農産物や加工品などの販売についても学んでいる。さらに、黒枝豆の生産農家を訪問し、農家から直接話を聞き、有機栽培による黒枝豆栽培の取組みについても学んでいる。

### 3. ミニ胡蝶蘭栽培における農福連携

三木市内にある住宅メーカーの関連会社で、ミニ胡蝶蘭を栽培している企業に、学生が夏休みのインターンシップとして受け入れてもらい、障害者や高齢者などが農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組みである農福連携についても学んでいる。

この企業では、地元の特別支援学校を卒業した軽度知的障害のある若者6名を正社員として採用するとともに、地域の高齢者も非正規社員として多く採用し、農福連携を実践している。

このような農福連携を実施している企業に学生が約1週間にわたって受け入れてもらい、ミニ胡蝶蘭の栽培、発送のための梱包などの作業を、障害者や高齢者などともに行なう中で、障害者や高齢者との協働や多様性について学ぶ機会を得ている。このインターンシップを終えた後の学生の振り返りにおいて学生からは、障害者や高齢者といっても、彼らの方が仕事においては学生よりも優秀であり、逆に仕事の作業内容などについて教えてもらう場合が多く、障害者や高齢者に対する理解が深まったとの意見が多かった。

### 4. 酒米の山田錦を使用した酢の販売促進

三木市吉川町は、日本酒の原料となる酒米の山田錦の高品質な生産地である特A地区に指定されている。近年の日本酒の消費量の減少に影響を受けた山田錦の生産量の減少に対応するため、そこで収穫された高品質の山田錦を原料として、吉川町商工会と日本酒を製造している醸造所が共同して、高級な純米酢を製造している。学生は吉川町商工会や醸造所を訪問し、農薬や化学肥料を可能な限り使用しないで栽培した山田錦を使用し、また酢の仕込み過程で出る廃棄物も堆肥にするなど環境へ配慮した取組みについて学んでいる。また学生は、その高付加価値のある酢の特性を消費者にどのように理解してもらい、販売を促進するかについてアイデアを出している。そして、令和4年度には、近畿経済産業局主催による知財ビジネスアイデア学生コンテストに参加し、地域ブランドデザイン部門で敢闘賞を受賞した。

また最近では、山田錦から製造した酢にブルーベリーの果汁を混ぜ、5倍に希釈して飲む濃縮された清涼飲料の商品パッケージのデザインなども、学生が担当している。

### 5. おわりに

兵庫県三木市にある関西国際大学経営学部では、学生が地域マネジメントを専攻し、特に三木市や丹波市における農業農村分野における、農業の6次産業化や地域活性化、農福連携、酒米の山田錦を使用した環境に配慮して製造された酢の販売促進や新商品の開発などについて、実地での経験学習を通して学んでいる。また、丹波市や三木市吉川町商工会などからは、農業農村分野における地域活性化についての、若い学生からの斬新なアイデアと行動力に大きな期待が寄せられている。